

ホーム名：グループホームあおやま2F				
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』として理念を掲げたことで、職員本位にならずに必ず入居者の立場になってその方の想いを達成できる関わりに努めている。皆が絶えず意識出来る様に全体会議で理念の唱和を継続して行っている。	理念には、常に利用者側に立って支援をしていこうとする事業所側の強い意志が込められている。職員による唱和はその共有化と認識の定着化を図るものである。職員の日々の支援もこの理念に基づいて実施されている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナ感染の予防の為、外出する機会が失われている。秋祭りも中止となり近隣の方ともお会いする機会がなくなっている状態である。	現在はコロナ渦の為、外部との接触は困難な情勢にある。しかしながら地域との交流は常に再開出来る態勢にある事が確認されている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族との話し合いの中で、GHでの取り組みや認知症の方への関わり方法をお伝えする事はあるが、地域の方へとなると、貢献はまだまだ積極的には出来ていない。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度行っている会議（現在、新型コロナ感染予防の為中止、報告書のみあげている）での意見や情報・提案などを踏まえ、すぐに取り組めることは早急に、検討が必要な場合は上位会議で報告・相談して反映させて頂いている。	運営推進会議は感染防止対策の為、外部からの参加者は制限されており、現在は事業所関係者による会議で討議されている。議事録は利用者の生活現況や支援の状況として纏められ家族にも郵送されている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の職員とも、介護保険上の事や加算に関する事、運営上に不明な点を相談させて頂くとすぐに回答を頂けていることから円滑な関係を構築させて頂いているが、研修会の参加も中止となり参加の機会がなくなっている。	事業運営上での必要な相談事、福祉上での決定事項などを直接聞かせてもらったりしている。今は中断されてはいるが運営推進会議にも参加要請し相互理解を深めるように努めている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはGH職員のみならず、法人職員も禁止意識は高い。フロア内エレベーターについては暗証番号制御されており、誰かと共に外出して頂くシステムになっている。内部の『身体拘束・虐待について』の勉強会も全体会議で定期的に行い職員の意識を高めている。身体拘束の適正化の為の対策、検討について考察し報告している。	厳格な身体拘束禁止に対する指導と研修を実施されている。身体拘束、高齢者虐待に関する研修では、職員に対して、介助支援の徹底的な方法を模索させている。GHが2階3階にある為、出入りにはエレベーターが使用されているが、安全の為、付き添い人が同行している。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の入り口には乱れた接遇があると考えている。言葉遣いから始まる多種の接遇面を職員皆が守る事が、ひいては虐待防止につながると考えている。虐待防止についての定期的な意識向上を行っていき職員間で注意しあう様にしている。	

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>一名の入居者が後見人制度を利用されている。弁護士との連絡もこまめに行っており関係性は円滑である。ただ、後見人制度そのものには学習不足は否めないことから、さらなる知識向上が求められ今後の課題にも成る。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を踏まえた説明でご了承いただいている。料金や加算の変更についても即時入居者家族に連絡しご了解いただいている。疑問が出ればすぐにご連絡頂ける関係性も構築できている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>上記にあるように疑問・提案・苦情があればすぐに連絡頂ける関係性はある。事業所で回答が難しい場合は上位会議にて議題としてあげている。早急な対応で解決に繋げている。玄関先には意見箱を設置している。</p>	<p>利用者が意見や要望をつねに管理者や職員に話せる様な雰囲気作りをされている。また、話された事については常に早急に対応され、日頃の支援に繋がっている。</p>	<p>上位会議に図られる案件については、正確である事が重要である事から、書面にて“提出のしなoshi”を頼まれてみては如何でしょうか。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一回、フロア単位の会議とGH全体の会議を開催している。会議一週間前には職員個々に議案を提出してもらい、回答を集め、皆の意見が会議内ですぐに話し合える状況を作っている。正職員やパートの意見が同等に扱われるように上位職は心がけている</p>	<p>職員の意見はフロア会議、GH全体会議等で、正職員やパートの分け隔てなく、積極的な話し合いがなされており、運営の改善に繋がられていく為の努力が払われている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>7月には自己評価と直属上司による一次考課、管理上司による二次考課を行い、正当な評価が受けられるよう取り組んでいる。考課表を示す事で職員自身も何をすべきことなのかを把握できる効果がある。また面談時には相談する機会にもなり向上心が持てる様に働きかけている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GHには学習委員を設置しており、自主研修を定期的に行っている。隣接している青山病院その他グループ事業で行われている研修も新型コロナウイルスの為に中止となりホーム内での研修を毎月行なっている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>近隣GHとのつながりを持つために『グループホームの集い』もコロナ感染の影響で現在中止となっている。問題点や相談事は電話で気軽に行える関係である。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時のアセスメントはもとより、家族にも協力して頂き、その方の想いを教えて頂くような用紙を用意している。</p> <p>職員は入居者ごとの担当者を決めており、その方の想いが聞きだせるための馴染みの関係が築けるように心がけている。又他の職員からの意見も取り入れて</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時では家族の状況・不安・要望を必ず聞き取っている。入居直後は特に家族への情報提供は欠かさない。上記にある入居者ごとの担当者が月に一度『あおやま便り』という手書きのお手紙を写真を添えてお渡ししている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時には生活歴を聞き、その方の今ある状況を受け止め、その方に合った支援を提供するよう心掛けている。直後は絶えず家族と情報交換を行い、ケアの見直しや展開を相談、連絡をしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理・掃除などの家事については積極的に協力して頂いている。自立支援の観点でもあるが、「共に力を合わせて暮らしている」ということを入居者にもメッセージとして表したいための取り組みである。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様参加の行事も中止となり来訪の機会は少なくなったが、面会時や電話での対応時には生活状態をお伝えして安心して頂けるように心がけている。毎週、決まった日時に面会に来られる家族様もおられる。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出が困難になり友人の面会も中止となっている。お誕生日外出も出来なくなっている為、本人に喜んで頂けるプレゼントやケーキを手作りしお祝いをしている。初詣行事もフロア内に神社を設定しておみくじや神主さんのお祓いなどで馴染みの場所の雰囲気を感じて頂いた。</p>	<p>コロナ渦の厳しい状況では馴染みの人や場所への移動は困難になっている。その分、内部行事に工夫を凝らしたり、職員のアイデアで誕生日パーティーを盛り上げさせたりして、利用者に楽しんでもらったりしている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>GH自体の建物が広くない事も功を奏してか、入居者は一応にしてリビングに出て来られる。入居者それぞれ脳トレや塗り絵をして過ごされ、皆でトランプやカルタ、唄レクに参加し楽しみを共有できている。また、入居者同士が協力し合い家事の手伝いを分担し参加している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>過去に退居された方であっても、法人として、またGH職員として関わっていることは少なくない。家族様がホームで過ごされた時間を懐かしんで頂き時として連絡を頂くこともある。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』とあることから、ケアマネジメントはもとより職員全員が入居者本位のケアを前提に行動している。一人一人の時間を大切にしながら共同生活の時間も大事に過ごして頂けるようにコミュニケーションを取って関わっている。	職員が利用者に対してどのような認識を持っているかが基本的に大切である。管理者はその観点から理念の自己決定の重要性と結び付けてられている。利用者一人ひとりの思いや意向を把握するにはコミュニケーションを通じて関わる事の重要性を理解されており、現実的な形で指導に当たっている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメントは生活歴や嗜好を教えて頂けるような用紙も用意している。直接の情報収集は当然行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ごとの担当者を設置しており、その担当者が会議にてその方の心身状況の変化が見られれば発表し、全員が把握できる状況を作っている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様の面会が少なくなったが電話での内容や会話は連絡ノートで職員に伝えたりフロア会議で知りえた情報を発信してチームでの情報の共有とケアの統一は常に行っている。プランに反映できるように会話の中でニーズを逃さないように心がけている。月に一回行うフロア単位の会議にて入居者のプラン見直しの会議を設けている。	計画作成担当者や介護支援に当たられている職員は、利用者の一人ひとりの介護日誌やモニタリングや家族の意見、またフロア会議での話し合いの結果も取り入れながら、総合的に判断された介護計画が作成されている。見直しの時期が毎月である事は、利用者の日常生活の現況に即応したものといえよう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をきめ細かく記載するとともに、情報メモという支援記録と気づきが記載できる書類を通じて職員間の情報共有を図っている。それに基づくモニタリングを計画作成担当者は実施している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHの建物の一階部分が通所リハとなっていることから、通所リハのPTに相談できる環境であり、そのPTもフロアに来てその対象者を直接に見たうえでの動作訓練を職員にできる環境である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用については関わりは弱い。外出レクとして菜園活動や近隣の公園などを利用してはいたが新型コロナウイルス感染予防の為出来ていない。近くの図書館へは職員が紙芝居を借りてきてレク時に楽しんで頂いている。その他の近隣施設を利用できるとは言い難く、課題である。	
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問回診を受けられる方が多くなってきたが馴染みの掛かりつけの病院には、家族様対応にて受診される方もおられる。定期的な健康管理が出来ている。	青山病院が協力医である事から月2回の診療をされている。歯科にいたっては毎週14名が受信されている。家族や本人の意向によって従来からのかかりつけ医の受診もされている方もいる。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に一回、隣接協力病院の看護職員が入居者全員の病状把握・相談・指導に来設している。訪問診療に同席する事も多く、医療との連携は円滑に取れている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療法人が運営するGHである事から隣接の病院との連携は円滑である。医師・看護師のみならず、病院内の地域連携室からの情報は個人情報に留意しながらも行われ、入退院についてもスムーズに対応させて頂いている。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に入居者及び家族に対して、当グループホームにおける指針の内容を説明した上で、入居者の重度化時及び急変時には重度化対応について話し合っている。また、GHでの生活継続が困難と思われる場合においても適切な施設への転居を提案させて頂くなど、入居者及びご家族の意向を踏まえながら話し合っている。</p>	<p>本ホームでの基本的な入居生活でのあり方については最初に説明がなされている。その後の重度化に向かい始めた段階では、再度これからの介助支援の方針について話し合われる事も約束されている。事業所側で出来る事の介助支援については、早い段階から家族に十分に説明をされており、納得された上で適切な転院先を紹介されている。家族との間で齟齬が生じないよう配慮されている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時には病院との連絡も対応が早く出来ている。研修においてもホーム内研修があり、GH職員はそれにも可能な限り参加して勉強会を行っている。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時対応マニュアルを職員は周知していると共に、消防訓練も定期的実施している。風水害発生時の対応も勉強会を行い職員全員に意識を持って頂いている。地震が発生した時や警報が発令された時に上位職は入居者、職員の安全確認を取っている。</p>	<p>職員に対して災害時にはどう対応するかを現実的なレベルで指導されている。職員はその体制のもとで消防訓練を実施したり、勉強会も積みながら、常に入居者の安全確保の認識をもち続けている。</p>	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては職員に、介護する上での根本的な姿勢を教育している。日々の中でも声掛け・プライバシーの保護を十分注意したケアを実践するよう努めている。「接遇」向上を目的とした勉強会を行い全員に意識付けを行っている。職員の月間目標に掲げることもある。	接遇に関する研修、プライバシーの研修が実施されている。支援を受ける側に立ってみると、いろいろな事が違って見えてくる。職員は勉強会を通じて人格の尊重やプライバシーの確保の大切さを認識され日常の支援の中で実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい飲み物の選択、衣服や野菜にかけるドレッシングの決定など、自己選択・自己決定できる環境では、必ず自分の意思を聞き、想いが反映できる生活づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に沿ったケアを皆が実践することと、だれが主人公なのか、を絶えず意識する事で入居者本位のケアが実践できているが、機会があるごとに職員と意見の交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマで過ごす、ということがないように入居者に無理なく声掛けし、ホーム内であっても人と会える装いで過ごしていただいている。女性の入居者が多いこともありおしゃれにも気を配られる方が多い。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては開設以来、職員が意識して入居者と関わっている。それにより入居者も炊事場に立つことがステータスになっている。一人の入居者に偏らない様、当番表をつくり交代性により多くの方に関わって頂ける様にしている。	一人の入居者に偏らない様に当番表を作り交代で多くの人に関わって行けるようにしている。もやしの根取り、お茶入れ、おやつ作り等など引き受けてくれる方には頼んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事については、委託業者がメニュー作成と食材配達を行っている。その為、栄養管理については問題がない。個々の摂取量の把握を行い担当医と連絡を取りながら栄養状態を観察している。水分が取りにくい方には好みの物を提供したりゼリーを作り工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては研修を通じて知識・技術の向上に努めている。また、訪問歯科の医師・歯科衛生士から教えをいただきケアに繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方については排泄チェック表を作成し、その方に応じたケアを提供するようにしている。紙パンツ使用の方が布パンツ対応で過ごす事が出来ないかは会議などで話し合い検討している。	基本的には排泄チェック表を利用して声掛けしトイレ誘導するようにしている。トイレ内では本人が出来るところまで見守り自立に向けた支援をされている。その方に合った支援の必要性も理解されており職員どうしはよく話し合いされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事形態の検討、医師・看護師への相談・受診、家族への相談などあらゆる視点から予防に努めている。夜間帯トイレ誘導時にも水分補給を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間を決めず、その方に聞きながら、気分の良い時に入浴を楽しんで頂いている。入浴時には職員との会話で子供の頃の話や家族の事や普段話さない事をお話しして下さったり、歌を唄われたりリラックスできる時間にもなっている。	週に3回入る方もいる。ゆず温泉のもとを入れ、リハビリしませんかと声掛けしたら「入ろう」と言われ、足の曲げ伸ばしをされている方もいる。入居されている一人ひとりの好みに合わせており効果を挙げられている。	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間は設けず、自然と自身から床について頂けるように心がけている。昼寝については体調に合わせているが居室でTVを見ながら自分の時間を過ごされている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬のしおりを確認して皆の薬についての理解を深めている。服用しづらい方には服用方法など薬剤師の方に相談をしている。誤薬が無いようWチェックをし服薬介助を行っている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個別プランには役割を位置付けており、「一緒に生活を作り上げていく」ことを実感して頂けるよう、食事作り・清掃など共同生活の中でその人が出来ることを考え、役割を持っていただいている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>その方の想いに添えるような外出などの援助を行ってきたが、現在はコロナ感染対策の為、外出、外泊は行えていない。受診時のみ家族同伴で外出される方はおられる。</p>	<p>コロナ禍の現状の為外出支援は実施されていない。従来なら外気浴もよくされていたが、今は利用者の安全な毎日が第一であるとされている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはGH内に個人での金銭持ち込みは禁止させて頂き、しかし外出時の買い物・飲食や外食については前もって立て替えなどで対応し、買い物が楽しめる状況にはするように努めている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話取り次ぎ要望は少なく、掛かってくれば取り次ぐ程度。希望の方には対応している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングの窓が大きく、駐車場を挟んで幹線道路に面していることから日当たりが良く、木々の色付きを見て頂けたり風を感じて頂ける。季節の移り変わりが分かる環境である。ホーム内は清潔を保つようにして、居心地が良い空間作りを行うように心がけている。フロア内にはその季節ごとに作業レクで作成した作品などを飾りつけている。感染対策の為、テーブルにはパーテーションを設置している。</p>	<p>ホームの2階、3階は同じ間取りであり、共に大きな窓からの採光でリビングの中は明るい。壁には職員と利用者で合作した作品が飾られていたり、水槽の魚も見えたりし楽しい共有空間が演出されている。利用者も職員もこのリビングで一日を穏やかに過ごされている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ハード自体が狭いことから、人同士が関われる環境ではあるが、一人になれる場所は居室のみである。もう少し小グループで関われるセミパブリックな空間があればなお良かった。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、タンスなどの家具も今まで本人が使用していた馴染みの物を置いて頂き、その場所を自分の居場所だと感じて頂くように、また、使いやすいうように自由にレイアウトして頂いている。食事の時は本人用の茶碗や箸・コップを使用させて頂いている。自分が一人になれる居場所を持たれ窓から景色を見ている方もおられる。</p>	<p>馴染みの家具や衣服、食器、置き物が持ち込まれ、自分だけのお気に入りの部屋としての生活空間が出来上がっている。清掃は職員が週2回実施し、またシーツ交換、枕カバーも週一回交換されており、清潔な居室が維持されている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり。</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内は基本的にすべて自由な空間である。新聞や雑誌を置き、歌集ファイルや脳トレや塗り絵を閉じたファイルも置いてある。居室には自分の趣味や好きな事に通じる物を置いて頂く事で、自分らしさ失わないようにして頂いている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない